



きらめき 串木野っ子

【校訓】
よく考え、
明るくすなおで、
がんばる子

令和3年度 6月号
串木野小学校学校便り
令和3年6月25日発行



10泊11日



～ 「三分の寒と三分の飢え」を与える ～

校長 藤山 洋一

かつて私が勤務していた県立南薩少年自然の家（南さつま市金峰町）では、市内の小・中学生が親元を離れ、施設から学校に登校する、いわゆる「学寮事業」を実施していました。

ここでは、生活の中のすべてのことを「自分の事は自分です」という原則ルールが徹底されていました。参加者は小学4年生から中学3年生までの40人程度だったと記憶しています。

勿論、全員が自ら希望して参加します。おそらく『友達と一緒に泊まれるなんて面白そうだな』というくらいの気持ちでいたのだらうと思います。ところが、3・4日もすると期待と楽しみ笑顔にあふれていた子どもたちの様相があやしくなってきます。テレビもない、スマホやゲームもない、食べたいときに食べていたおやつもない、身の回りの整理整頓はもちろんのこと、部屋のそうじや毎日の洗濯、加えて定刻にやってくる夜2時間の学習タイム、すべて自分の意思で決定判断して動かなければなりません。ここでは、普段の家庭での甘えは一切許されません。

そして、この事業には意図的な「しかけ」も組み込まれていました。10泊11日の全日程の4日目、子どもたちにそれぞれの親宛てに手紙を書かせるのです。なぜ4日目かと言いますと、非日常生活での子どもたちの耐性が揺らぎ始め、有効な教育的効果が確認できるのは3泊目以降であるということが専門的データで明らかになっていたからです。実はこの手紙が事業の最大のねらいなのです。時間や規律に縛られた自力本位の生活を体験し、自らの弱さと日頃の家族の支えに改めて気付く時なのです。間もなく親や普段は喧嘩ばかりの兄弟から返事が届きます。愛情に満ちた励ましの手紙に自然と涙が溢れます。普段はやんちゃな男子中学生も、この時ばかりは神妙な面持ちで手紙に食い入ります。

物が豊かになり飽食の時代にあって、「満たされない体験」を通して初めて気付く尊いものがあるのでしょうか。豊かさでなく貧しさ、不便さの体験、温かい保護でなく汗を流し、泥まみれになる体験、成功だけでなく己の不甲斐無さを知る体験、受け身だけでなく挑戦する心を育てる体験。この時代に生きるかわいい子どもたちに、今、親たちの勇氣ある愛情を注ぐ必要があることを子どもたちの涙に感じたのです。

去る6月22・23日、本校5年生は県立南薩少年自然の家で集団宿泊学習を実施しました。コロナ以前は2泊3日でしたが、昨年度に引き続き1泊2日に短縮して実施となりました。10泊11日とはいきませんが、わずか1泊だけでも、普段学校では見せない子どもたちの「良さ」をたくさん発見することができました。校長という立場を離れ、以前施設職員として勤務していた経験的・客観的視点で評価したとしても、それは素晴らしい行動が随所で見られました。

「時を守り、場を清め、礼を尽くす」の行動目標を設定し、お互いに声を掛け合いながら実行しようと頑張る子どもたちの姿に、今後の成長の可能性を強く感じました。

満たされないからこそ、子どもたちは知恵を出し合い、励まし合い、力を合わせて困難を乗り越えようとするのでしょうか。

かわいい子を立派に成長させようと思うならば、その子には「三分の寒 と 三分の飢え」を与えよ。貝原益軒の教えです

大漁旗染め 6年生

今年も亀崎染工さんの御協力により、6年生が大漁旗の染め物体験を行いました。伝統的な技法を用いて、それぞれの学級のアイデアを出し合ったカラフルで迫力ある大漁旗が完成しました。（6月21日の南日本新聞でも紹介されました。）

串木野小体育館には、これまでの卒業生が制作した大漁旗が飾られ、串小らしい風景の一つです。

色とりどりの大漁旗を手際よく作ることができるように亀崎染工さんには毎年、大変お世話になっており、何人もスタッフが付き添って子供たちの色付けにアドバイスをしてくださいました。

6年生によると「自分たちのクラスの旗が完成して飾られ、迫力があってとてもいい。」「旗に書く言葉をみんなで考えた。見てほしい」と嬉しそうでした。串小6年生の卒業に向けたすばらしい思い出作りとなっています。



6年1組



6年2組



6年3組

友達の大切さを学んだ宿泊学習

6月22日(火)23日(水)に5年生は、南薩少年自然の家で1泊2日の集団宿泊学習を実施しました。とてもよい天気にも恵まれ、計画どおり全員元気に2日間を楽しく過ごすことができましたようです。

1日目はオリエンテーリング、2日目はニュースポーツと仲間とともに活動を楽しみ、絆を深めることができ、大変有意義な宿泊学習となりました。

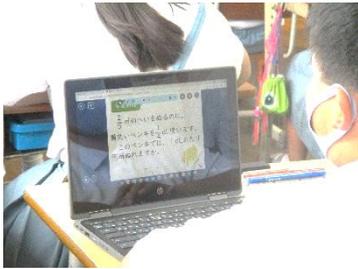


解散式では、児童の代表が「オリエンテーリングでは仲間と協力することの楽しさや大切さをとても感じた。灯火の集いでは家族への感謝の気持ちがわいてきた。思い出に残る2日間だった。」と帰校のあいさつを發表しました。また宿泊学習の引率をした校長よりお褒めの言葉をいただきました。「君たちの2日間の態度はAランクでした。」そして「引率した先生たちの動きもAランクでした。」と拍手で称え合うことでした。

宿泊を通じた集団生活の経験が自信となり、今後の生活でも高学年らしい自主的な態度を伸ばしていくことを楽しみにしています。

タブレットを活用した学び

串木野小では今年度より一人一台のタブレットが与えられ、各教科の学習で活用されています。6年3組の算数の学習を例に紹介します。ここで使われているのは、ロイロノート・スクールという学習支援アプリです。教師と児童、児童同士など双方向の授業を行うことができ、視覚的なプレゼンテーションができ、対話的に学ぶことが期待されています。まだ使い始めたばかりのこのアプリですが、6年生ともなると慣れた手つきで操作する姿が見られ、感心しました。



算数の問題は一人一人のタブレットに担任から送られます。ノートに問題を書き写す時間を省略することができ、またイメージしやすいようにイラストも交えた問題が送られてきます。まずは問題を読んで、自分なりの考え方を子供たちは考えます。



この日は分数÷分数の計算方法を考える学習でした。答えを求めるためにタブレットに表示された図に色を塗っています。ペンや色鉛筆を使わなくても画面を指でなぞるだけで簡単に決められた範囲に色を付けられるのは算数の時間の大きな時間短縮になり、その分じっくり考えることができます。



タブレットを使って考えたことを友達と意見交換しているところです。自分のタブレット画面を示しながら説明していました。最後に練習問題も出されましたが、もちろん担任から個人のタブレットに送信し、答えが出た児童はタブレット上で担任へ提出しました。

◎ タブレットを活用した学習について6年生の児童に尋ねました。

「使えるようになってくると、とても便利だと分かった。」

「英語の発音を確かめたり、プレゼンテーションを作ったりすることができる。」

「総合的な学習の時間に修学旅行で行く熊本のことを調べている。」

まだまだ様々な活用方法が考えられ、理科や音楽、体育の時間に動画を自分で撮影して学習の成果を発表したり、互いに評価したりすることができます。また基本的なドリルの活用により学力の向上に役立てたりする使い方も始まっています。全てをタブレットで学習するわけではありませんが、情報機器を上手に使い学習に利用できるように学校全体で取り組んでいます。GIGAスクール構想元年、児童も職員もよいスタートができています。

7月行事予定 (予定が変更になる場合があります)

- 1日(木) ※開催を予定していた学級PTAは紙面開催となりました。
8日(木) 第2回学校運営協議会
10日(土) 土曜授業
20日(木) 終業式
21日(金)～8月31日(火) 夏季休業
23日(金) スポーツの日 東京オリンピック開会式
27日(火) 教育講演会(オンライン)

8月行事予定

- 2日(月) 出校日
20日(金) 出校日
29日(日) PTA奉仕作業



「思いやりの種」カード 港町公民館長さんよりいただきました

児童の善行を地域ぐるみで称賛していただくために「思いやりの種」カードに取り組んでいます。今回紹介するのは、港町公民館長さんよりお預かりした分です。

4年生女子児童

道で会ったら元気よくはっきりした言葉であいさつしてくれます。隣の郵便局にお母さんと一緒に切手を買いに来るときも、笑顔であいさつしてくれるので局員の方もうれしくなるそうです。人に与える感動がいかに大事であるか思い知らされます。



6年男子児童

とにかく明るく元気です。誰にでも気持ちよくあいさつをしてくれます。始業式の後、小学生のクラス替えのことを尋ねると、誰々は何年何組と、すべて教えてくれました。また友人や下級生への気配りができる子です。学校から帰ってくると自宅の駐車場でバスケットボールの練習をしていて、その様子を大人も目を細めて見えています。

6年女子

人なつっこい女の子です。よくあいさつをしてくれる優しい子であると近所の皆さんが口を揃えておっしゃっています。近所の子供たちと天気の良い日はバスケットボールをして遊んでいます。また、公民館行事の道路の草取り作業にも積極的に参加してくれます。

記入していただいたカードから、地域で子どもたちのことを見守っていただいていることがよく分かります。ありがとうございます。地域の皆様、今後も「思いやりの種」カードを活用されて、串木野っ子のよさを認め、励ましていただきますようお願いいたします。

